自閉スペクトラム症疑いの男子高校生との関わり

活動記録をすることで登校が可能となった事例

医療法人社団　五稜会病院
○福原　佑佳子、佐々木　竜二、中島　公博

はじめに

- 自閉スペクトラム症（以下、ASD）の人々はセルフモニタリングを苦手としており、適切な自己理解ができない
  - ・抑うつや不登校などの二次症状
  - ・漠然とした不安感の訴え

活動記録を導入することで、適切なセルフモニタリングが可能！不安感が低減し、再登校できるようになった症例を報告

症例の概要

- 10代男子高校生（以下Pt）、ASD疑い
- 主訴：不登校、不安感
- 母、弟の3人家族
- 経過

≪X-3年≫ クラスになじめず、登校を渋る。
≪X年≫ 高校入学後、友人とのトラブルあり、退学。当院へ一度のみ通院。
≪X+1年≫ 私立高校へ転入するが、登校しづらいと訴え、当院再診。薬物療法と臨床心理士（以下CP）による面談が導入（隔週の頻度で実施）。
※5回目までの面談経過を報告。

症例の概要

- WISC-IVの結果
  - ・全検査IQ=95、言語理解=109、知覚推理=88、作動記憶=79、処理速度=70
- さまざまな不安
  - ・学年が一つ上であると露呈すると、いじめられるのでは
  - ・人に危害を加えるのではないか
  - ・自分の顔が左右対称ではないことが気になる
  - ・母はいつか家を出て行ってしまうのではないか

など

初回面談でのエピソード

- 初診時と再診時の態度やようすの違い
  - ・初診時：イヤホンをつけ、イライラ
  - ・再診時：落ち着いて話しており、真面目な印象

CP：『初診時と再診時で態度が違っていたようだけど、この違いは？どこから？』

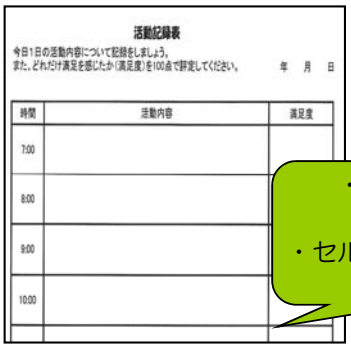
Pt：『もしかすると初診の時も一生懸命話を聞いてくれていたのかもしれない。ただ、自分の感じ方や捉え方のせいで、イライラしていたのかもしれない』

適切なセルフモニタリングが可能では？

経過①初回面談～２回目

- Ptの発言
  『考えてもどうしようもないことを考えてしまう』
- CPの関わり方
  - ・ラポール形成に努める
  - ・学校での困りごとや、母との関係があまり良くないこと不安感などを聴取
  - ・**活動記録をホームワーク**として提案
- 登校日数
  - ・週に2～3日

活動記録表について


活動記録表

今日1日の活動内容について記録をしましょう。
また、どれだけ満足を感じたか（満足度）を100点で評定してください。　年　月　日

時間	活動内容	満足度
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		

- 一時間毎の枠を設定
- 活動内容を記載
- 満足度のみを評定

・問題を客観的に捉える！
・セルフコントロール感の向上！

経過②面談３回目～４回目

- CPの関わり方
  - ・活動記録表より、勉強にコツコツ取り組める点は長所でもあると伝える
  - ・スモールステップの原理を説明
- Ptの発言や変化
  - ・勉強している時間は満足度が高い
    ＝安心している時間があることに気付く
  - ・『クラスの人達はいい人が多い』
- 登校日数
  - ・週に2～3日

経過③面談5回目

- CPの関わり方
  - ・一年間を振り返ってもらう（紙面を用い、頑張ったことなどの記載をしてもらう）
  - ・リラクセーション法の指導
- Ptの発言や変化
  - ・この一年間で学校やテスト、人間関係をうまくやれるように頑張った
  - ・問題を少しずつ解決できるようになっている
- 登校日数
  - ・遅刻しながらも毎日登校

考　察

- 活動記録をすることで、適切な自己理解が促進

⇒不安感ばかりの毎日に、安心できる時間があることに気づく！

⇒視覚化や数値化の有効性

- 自分の強みに目を向け自己肯定感が向上

⇒何かを新たに習得することなく、既にある自分の強みに気づく！

問題を客観的に捉えられるようになり、セルフコントロール感が向上！
二次症状（不登校や不安感）の改善へ！！

今後の課題

- **対人関係の構築、強化**

  いじめ経験から他者評価を過剰に気にしている。空気の読めなさは感じさせず、寧ろ、気にしすぎてしまっているように思える。

- **母との関係修復**

  幼少期に後追いをしないなどあり、母は育てにくさを感じていた。本人から母へ挨拶や声かけはしているが、声が小さくて聴こえづらいということが母の話から発覚。

円滑なコミュニケーションのため、
社会的スキルの向上を！